巻頭特集

陶芸のまち、瀬戸で学ぶ

瀬戸市マルチメディア伝承工芸館／瀬戸市新世紀工芸館

研修生を受けいれ、次代の陶芸家を育てる

瀬戸市マルチメディア伝承工芸館・瀬戸染付研修所と瀬戸市新世紀工芸館・陶芸コース。2館の役割と研修生の声を通し、陶芸のまち、瀬戸を見つめ直します。

瀬戸染付の未来を担う 瀬戸市マルチメディア伝承工芸館

「瀬戸染付の伝統を絶やさないように」との思いから2000年に開設された瀬戸市マルチメディア伝承工芸館。本館、交流館、古窯館にわかれており、瀬戸染付を中心に、瀬戸の文化・観光を紹介しています。一般向けの絵付体験事業を開催するなど、瀬戸染付の普及、啓発にも力を入れています。

交流館1階の瀬戸染付研修所には、毎年、数人が研修生として入所し染付の腕を磨きます。研修期間は基本的に2年間で、最長4年まで更新可能。染付作家の指導員がいますが、研修は自由な作陶活動によるものです。

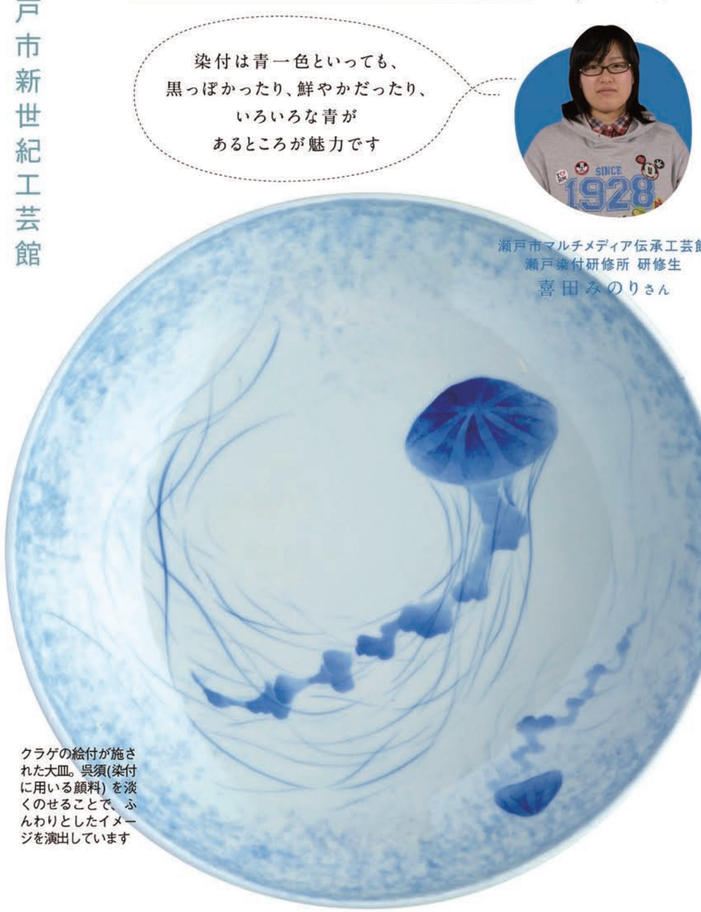
この春、修了する喜田みのりさんは、期間中ほぼ毎日制作にあたってきました。高校時代に陶芸を体験し楽しさに目覚め、愛知県立瀬戸窯業高校の専攻科に入学。特に、課題で取り組んだ染付に興味を持ちます。さらに染付の勉強をしたいと希望し、恩師から紹介された瀬戸染付研修所への入所を決めました。喜田さんが選ぶモチーフは、瀬戸で伝統的に描かれてきた植物や、クラゲや熱帯魚、イルカなど海の生き物がメーン。野外の風景や、印刷物を資料にするほか、年に数回は水族館に出かけ撮影した写真からスケッチを起こします。植物ならば、牡丹やシャクヤクといった豪華で見栄えのする花よりもハナナスやリンゴ、芝桜など可憐で素朴な花が多いとか。絵付は料理の盛りつけの邪魔にならないように、とりわけ器の重量に気を配り、実用性を大切にした制作を心がけてきました。

瀬戸染付研修所では、制作風景を見学者に開放しています。「人前での作業に馴れず、緊張しました。自分の作品を購入してくれた人が、再訪の際『使いやすい良い器だね』と声をかけてくれた時は嬉しかったです」と、喜田さんは研修所での思い出を話します。

瀬戸染付研修所は、修了生も期間を定めて施設の利用が可能。修了後は働きながら、終業後に制作にあたりたいという喜田さんは、「あっという間の2年でした。これからは器と平行して、オブジェも制作していきたいです。公募展にも積極的に出品するつもりです」と今後の抱負を語ります。

瀬戸染付研修所 研修生作品展
日時／3月6日（木）～9日（日）
場所／瀬戸市文化センター

瀬戸市マルチメディア伝承工芸館
住所:瀬戸市西郷町98　TEL:0561-89-6001
URL:http://www.seto-cul.jp/　開館時間:10時～17時
休館日:火曜日（祝日の場合は翌平日）、12月28日～1月4日
（4月から施設名称が瀬戸染付工芸館に変更します）



瀬戸市マルチメディア伝承工芸館
瀬戸染付研修所 研修生
喜田みのりさん

クラゲの絵付が施された大皿。呉須（染付に用いる顔料）を淡くのせることで、ふんわりとしたイメージを演出しています

1. 思わず息をつめてしまうほど、繊細な筆運びです　2. 喜田さんの作品。手前の盃は、公立陶生病院の西棟竣工記念品として、修了生や研修生からなるグループが 1200個つくったものの一部。喜田さんは野いちごを題材にセレクト。このほか、露草や野ぶどう、南天など身近な植物が描かれました

陶芸の新たな世界を拓く 瀬戸市新世紀工芸館

レトロ風建築が、ひときわ目をひく瀬戸市新世紀工芸館。瀬戸のまちの特性を生かし、新世紀の産業・芸術・文化の発展を図ることを目的に1999年開館しました。

展示棟、交流棟、工房棟からなり、毎年、陶芸コース、ガラス工芸コースで各6人を研修生として受けいれています。また「アーティスト・イン・レジデンス瀬戸国際セラミック＆ガラスアート交流プログラム」では、陶芸・ガラス作家を海外から2人ずつ招聘。滞在制作、展示を行う企画は、14年目を迎えます。外国人作家との交流は、研修生にとっても制作方法や考え方を学ぶ絶好の機会のようです。

武蔵野美術大学時代、直接手で触れて形づくる陶芸に魅力を感じ、陶磁専攻を選択した漢人（かんど）そのみさん。卒業後も制作を続けられる場所を探し、昨年から研修生として活動しています。カリキュラムがなく自由に制作でき、どんなものにもチャレンジできる整った設備に惹かれたと話してくれました。

「自由だからこそ怠けることも可能です。でもせっかくの環境、なるべく制作していたい」。その言葉のとおり、展示やイベント出展の予定を入れ、常に制作しなければならない状況に自らを追い込んできました。「陶芸をはじめてまだ3年半、技術も経験も足りず、なかなか自分で答えを導きだせない点が悔しいです。売れるものと、やりたいことのバランスも難しいですね」とこの1年を振り返ります。

漢人さんは現在、珊瑚の質感にヒントを得た作品を制作しています。幾度も粘土を塗り重ねることで、本物の珊瑚が成長していくように少しずつ模様がつくられていきます。「『手元において幸せになれる作品』を目指しています。きれいな木の実や貝殻を思わず家に持ち帰るような、そんな感覚で手にとってもらえるものを制作していきたいです」と目標を話します。

「造形、釉薬、焼成、すべての工程において、どれだけやっても尽きない世界です」と、陶芸世界のさらなる深淵をみつめる漢人さん。研修期間終了後も、貸し工房や貸し窯があり、材料や道具も直接購入できる瀬戸で工房を構え、制作を続けていこうと考えています。

瀬戸市新世紀工芸館
陶芸コース 研修生
漢人そのみさん

瀬戸市新世紀工芸館
第10期研修生修了作品展・第11期研修生作品展
日時／～3月23日（日）
場所／瀬戸市新世紀工芸館 展示棟

瀬戸市新世紀工芸館
住所:瀬戸市南仲之切町81-2　TEL:0561-97-1001
URL:http://www.seto-cul.jp/new-century/
開館時間:10時～18時（ただし、入館は17時30分まで）
休館日:火曜日（祝日の場合は翌平日）、12月28日～1月4日
※月1回程度館内清掃・点検のため正午まで休館

3.4. 2月から開催されている研修生展ではスペースに合わせ、大きなオブジェを制作しました。4日間、粘土を塗り重ねる作業が続きます　5.有機的なフォルムと珊瑚を思わせる質感が融合した花器

文／江藤莅夏　写真／新井のぞみ　デザイン／chica